

韓国忠清南道について

忠清南道（チュンチョンナムド、ちゅうせいなんどう）は、大韓民国中部（朝鮮半島中西部よりやや南）に位置する行政区。1896年、勅令第36号で朝鮮八道における忠清道の西半分を「忠清南道」と定めた。1945年以降は大韓民国の行政区となり、現在に至る。通常は**忠南**と略される。

忠清南道の一部であった大田市が1989年に「大田広域市」として分離した後も、道庁は大田広域市に所在していたが、2012年12月、礼山郡と洪城郡にまたがる地域に道庁を移転した。

道の3分の1の面積は農用地である。農業以外では漁業も重要な産業である。220km²にも及ぶ塩田があり、また道南部では金や銀、石炭、モナザイト、ジルコンが採掘される。

歴史を有する多くの寺院がある。1978年には、泰安海岸国立公園が開かれ、韓国有数の海水浴場となっている。

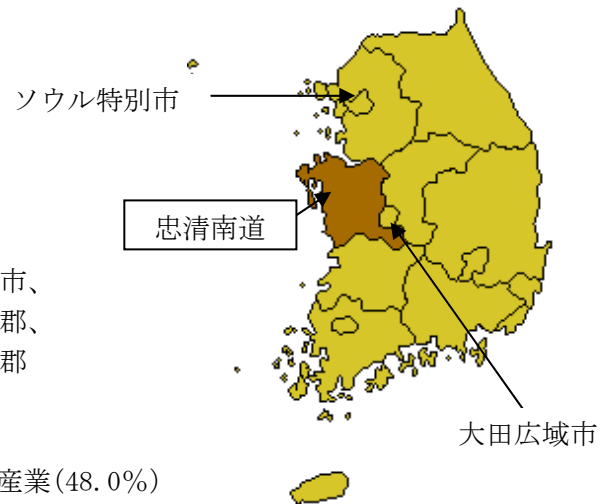
概要

- (1) 人口：2,033千人（2013年3月）
- (2) 面積：8,194 km²
- (3) 気候：年平均12.6℃
- (4) 知事：安熙正（アン・ヒジョン）
- (5) 行政区域：8市7郡

天安市、公州市、保寧市、牙山市、瑞山市、論山市、鷄竜市、唐津市、錦山郡、扶余郡、舒川郡、青陽郡、洪城郡、礼山郡、泰安郡

- (6) 経済規模：地域内総生産（GRDP）65.1兆ウォン
≒4兆5,570億円（2009年）
1次産業（10.8%）、2次産業（41.2%）、3次産業（48.0%）

- (7) 主要産業：農水産業（高麗人参、花き等）
製造業（ディスプレイ、自動車、鉄鋼、石油化学等）IT/BT/NT産業など



最近のトピックス

- 平成19年9月に、泰安郡が総合エネルギー特区に指定され、平成20年に太陽光発電施設が完成。
- 平成23年5月に大田広域市（大徳地区）が国際科学ビジネスベルトの拠点地区に、燕岐郡・天安市等が機能地区に指定された。
- 平成24年7月に、旧燕岐郡及び公州市を中心とした行政中心複合都市（世宗特別自治市）が発足し、中央行政機関が移転した。
- 礼山（イェサン）郡と洪城（ホンソン）郡にまたがる地域（道北西部）に内浦新都市を建設し、平成25年1月に道庁を移転した（平成25年4月4日に行われた開庁式典には朴大統領も参加）。
- 平成25年4月30日に新道庁において、静岡県と友好協定を締結した。

その他

日本及び静岡と縁が深い、百濟王朝の最後の都が所在した場所である。百濟最後の戦となった663年の白村江（はくすきのえ）の戦（戦場も忠清南道）では、静岡から1万余りの軍勢が援軍として向かったといわれている。